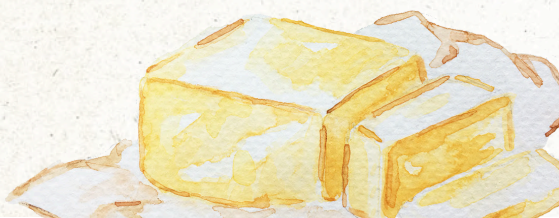




いい夫婦の日

BLACK CHANNEL fanfiction
BLACK×AKANE

窓の無い部屋



いい夫婦の日

ブラックとの新婚生活が始まって間もないある晩、アカネは腕まくりをしてキッチンに立っていた。

手元には小麦粉と牛乳とブイヨンを煮た鍋に溶き卵とパン粉。そして揚げ油。メニユーはクリームコロッケだ。

夜型のブラックと朝の早いアカネとはなかなか生活のリズムが合わない。朝食をアカネ、夕食をブラックが作る分担にしているが、ひとつ屋根の下に暮らしていても一緒に食事をとれない日が続くこともある。

二人の休みが重なった今日は久々にブラックと食卓を囲める。せっかくだから自分が夕食を、それもちよっとお洒落なメニユーを作ろうとアカネは張り切っていたのだった。

「あ、あれ?……これ、お手本と違うような」

けれども作ったことのあるポテトコロッケと違い、クリームコロッケのタネは扱いが難しい。冷蔵庫で冷やし足りなかったクリームは、粉をはたこうとしても溶き卵にくぐらせようとしても、手の中でとろけるように崩れてしまう。

「ど、どうしよう……」

アカネは途方に暮れた。タネに小麦粉を足したり、長く揚げてみたりして何とかコロッケの形を作ろうと試みる。どうにか完成した頃にはすっかり夜も更けていた。

時計を見たアカネが涙目になったとき、ドアの隙間からたびたび様子を伺っていたブラックが、いかにも今しがた編集が終わったばかりという風に書斎からやって来た。

「オレちゃんのせいで夕食が遅くなってしまってますみません。配膳は手伝いますね」

手早くキャベツを千切りにして皿に盛り、ご飯とインスタントの味噌汁と共にテーブルへ並べていく。

二人は向かい合って席に着いた。

「……やっぱイマイチだね。レトルトのカレーかカップ麺でも作ろうか?」

「オレちゃんが好きな味ですよ。でもアカネさんが納得していないなら、次の休みには一緒に作りましょう」
揚げ過ぎたコロツケは黒ずみ、タネは粉っぽく衣は油を吸い込んでしまっていたが、ブラックはそれを次々と口へ放り込んでいく。

アカネは頬を赤くし、嬉しさを隠せない様子で、しかし首を横に振った。

「ありがとうブラック……でもアタシができないことはアタシ自身が頑張つてできるようにしたいんだ。必ず得意料理に見せるから、期待してくれ」

「アカネさんは努力家ですね。そういうところも素敵です」

夜は和やかに更けていく。

——数ヶ月後。

「やっぱりアカネさんのクリームコロツケは絶品ですね〜！おかわりお願いします」

「本当にコロツケ好きだよな。沢山おかわりしてね」

「うわあああ!!何これ!?!」

新居にやって来たさとしが見たのは、すっかりコロツケを上手に作れるようになったアカネと、揚げ物を食べすぎて体重100kgになったブラック。

リビングからはみ出しそうな巨体を揺らしてコロツケを頬張る様子に、さとしは白目を剥いてツッコんだ。

「食べ過ぎだろーっ!!」

「幸せ太りです」

「じっじっ」

「ニー！」

カメラちゃんと青オニちゃんの冷やかしが重なる。
ブラックがアカネとの山ごもりトレーニングでシェイプアップを果たすのは、また別のお話。

2025・11・22 無窓

あとがき

お読みいただきありがとうございます！

こちらはWEB イベント『オンリー無いオンリー』様に展示させていただいた無配冊子となります。

11月22日開催のイベントということで、アカブラの新婚もようを書いてみました。普段アカネをからかってばかりいるブラックが、アカネが本当に困ったり頑張ろうとしていたりするときには優しいのが好きで、アニメのそういう話の雰囲気を出せていたら嬉しいです。

(イメージは2022/6/4公開の「料理下手女子をバカにする自称カリスマ料理研究家→料理下手女子が本気を出した結果...」という回です。体重1000kgのブラックは2021/10/02公開「体重1000キロ!!どこまで太れるのかチャレンジした結果」という回のサムネで見られます)

原作はペロペロ編が佳境に入り、よみものノベルも発売されて盛り上がっていますね。

寒さに向かいますので健康に推し活していきましょう。

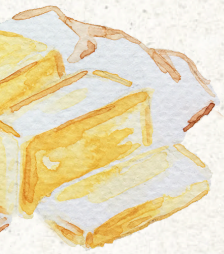
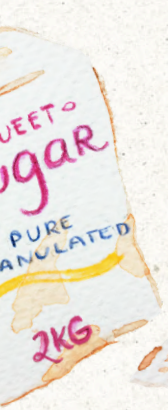
2025/11/22 無窓



活動先一覧

いい夫婦の日

サークル名	窓の無い部屋
著者名	無窓
連絡先	madononaiheyante@gmail.com
発行日	2022年11月22日



本作は個人のファンによる非公式二次創作です。
原作およびその関係者様とは関わりありません。
ご理解いただける方以外の目に触れてしまわないように
お取り扱い下さい。

